



12月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
				1 入道-アソビ ック 10:00~	2	3 もっこくきょうしつ 木工教室
4	5 どいしょう ねんせい 土居小3年生 りんぼかんがくしゅう 隣保館学習	6 からてきょうしつ 空手教室	7	8 入道-アソビ ック 10:00~	9	10
11	12	13 からてきょうしつ 空手教室	14	15 入道-アソビ ック 10:00~	16	17 なわづく しめ縄作り たいけんきょうしつ 体験教室
18	19 ゆうゆう 悠遊クラブ	20 からてきょうしつ 空手教室	21	22 入道-アソビ ック 10:00~	23	24
25 	26 しょくぎょうそうだん 職業相談 10:00~	27 からてきょうしつ 空手教室	28 しごとおさ 仕事納め	29 きゅうかんばん 休館日 (~1/3まで)	30	31

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？
隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。
また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。

土居隣保館便り

令和4年
12月号

発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356



隣保館講座 参加者募集のお知らせ

昔ながらのしめ縄作り体験教室

～手作りのしめ縄で新年を迎えませんか～

日時 12月17日（土） 9:30~12:00

場所 土居隣保館 会議室

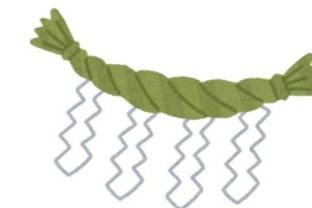
定員 20名程度

参加費 無料

申込締切 12月12日（月）17時まで

※参加希望の方は、電話またはFAXでお申し込みください

TEL 28-6356 (FAX兼)



～新任職員紹介～



11月から土居隣保館勤務になりました。事務の山田留美です。
地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるような隣保館となるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいします。

先人の生き方に学ぶ

私たちの地域には岩崎伊三郎さん、江口いとさん、安藤正楽さんなど差別と闘った先人がいます。差別を許さず、人を愛し、人々の暮らしを守ったその生き方は、私たちに多くのことを教えてくれました。それぞれの先人の生きざまをシリーズで紹介していきます。

差別解消を訴え、自由平等を求め続けた人 安藤正楽さん

1 信念をもって生きる

正楽さんは、1866年、土居町に生まれました。正楽さんは、若い時から芸術を愛し、多くの作品を残しています。また父親の影響で政治に深く関心をもち、全ての人々が安心して生活できる社会をつくりたいという志を抱いていました。そして、地元を愛し、地元のために多くの功績を残しました。正楽さんは、22歳の時上京し、国際法を学びました。そこで、戦争は多くの人々の自由と平和を奪うと考え、非戦主義になりました。

その後正楽さんは土居町に帰り、宇摩郡会議員を経て36歳で県議員になり、1期4年勤めました。その後再び上京し、書画や歌、詩などに才能を発揮し、多くの文化人と幅広く親交を結びました。軍事色が強くなる中で、反差別主義と平和主義を提唱しました。土居町に建立された「日露戦役記念碑」に、忠君愛国の思想を批判する碑文を書きましたが、碑文は前文削除されました。平成5年、緑者により碑文が復刻されました。

2 教育の平等を訴え続ける

激戦の末、県議会議員に初当選した正楽さんの第一声は、部落差別によって教育の機会を奪われた子どもたちの教育問題でした。3回にわたる正楽さんの県議会での質問は、議事録に残されています。

●1回目の質問

「我が国には学校が多くあるが、今も、まだ、部落差別は続き、学校に通うことができない児童が多くいる。1日も早く全ての児童が学校に通えるようにするべきではないか。また、分校制をとって学校を別々しているのはどうか。」

○県の答弁

「学校別にしていることは一切ない。分校などあるはずはない。」

●2回目の質問

「自分たちの地域には、地区の児童が通える学校はない。分教場はあるが正規のものではない。他の地域でも学校が別々になっていたり、学校が同じでも教室が別々になっている。来年からこういうことはなくするのか。」

○県の答弁

「まだ分教場が残っているのは一時のことである。地区の子どもたちは、どうすすめても学校へ入らないのだ。」

●3回目の質問

「文明が進んだ現在でも、本県には1万人以上の未就学児がいる。地区の子どもたちの多くは学校へ行く年が来ても、学校へ行けない子どもが多くいる。多くの児童はその日の生活に追われ、学校に通えないこともある。しかし、学校へ通えない最大の原因は、学校に行っても差別されるという事実があるからだ。同じ国民として教育の普及を図り、来年度から分校制度を廃し、同じ質問をさせないでほしい。」

☆まだまだ差別の厳しかった時代に正楽さんは真正面から差別の間違いを質していきました。県議会で正楽さんの厳しい追求を聞いた当時の議員さんからは、お前も地区の人間でないかと言われました。それに対して正楽さんは「そうだ。それがどうした。」と答えたと言います。

その言葉には、人間は誰もが平等で尊い存在であるという正楽さんの思いが込められていると思います。

私たちのふるさとは、差別を許さず、差別をなくするために闘ってきた人がたくさんいます。そして、今も差別をなくすために闘い続けている人がいます。素晴らしい先人がいて、差別を許さない仲間がいるこのふるさとを、私は誇りに思います。



八坂神社



日露戦役記念碑



安藤正楽